

ビ

ビッグデータ活用に関する最新調査結果を発表

～企業は、ビッグデータがもたらす効果に満足しているとともに、デジタルを梃子にした変革に向けた受容性を認識している～

- アクセンチュアの最新調査によると、ビッグデータをビジネスに活用している企業の経営幹部のうち、92%がその効果に満足していると回答した。回答者の89%は、ビジネスをデジタルによって変革するために、ビッグデータは「非常に重要」または「極めて重要」と考え、82%はビッグデータが企業にとって重要な価値の源泉になると考えている。

今回の調査は、日本を含む19カ国7つの業界で活躍する企業のCIO（最高情報責任者）、COO（最高執行責任者）、CDO（最高データ責任者）、CAO（最高アナリティクス責任者）、CMO（最高マーケティング責任者）、CFO（最高財務責任者）のほか、ITや分析担当部門の責任者を対象に実施した。

アクセンチュアデジタルで、アクセンチュアアナリティクスを率いるシニアマネジング・ディレクターであるナレンドラ・ムラーニ氏は次のように述べている。

「企業におけるビッグデータの認識は大きな転換点にさしかかっています。ビッグデータがもたらす潜在的な効果が話題になるだけではなく、収益、顧客ロイヤリティや業務効率の向上など、目に見える効果が生み出されています。これによって企業は、ビッグデータはビジネスを変革させる一つの基盤になるという認識を持ち始めているのです。」「い

まや、水道管のようなもっとも基本的なインフラ設備でさえ日々データを生み出しています。IoT（Internet of Things）という考えのもとに、大量のデータが生み出されている一方で、ビッグデータに関連する新しい技術が生まれており、そのデータから優れたビジネスインサイトが導き出されています。ビッグデータを活用していない企業は、データから経営に資する情報に昇華させて、組織の成長や競争優位につなげる機会を見逃がしているのです。」

60%以上の経営幹部は、自社がビッグデータの導入に成功していると回答している一方で、36%はビッグデータを活用したプロジェクトはまだ実施しておらず、また現時点で取り掛かっているプロジェクトもないと回答している。現在ビッグデータプロジェクトを推進中だが、完了していないと回答した企業幹部は4%だった。

ビッグデータはどのような効果をもたらすのか

本調査結果によると、経営幹部は自社がビッグデータを大いにまたはある程度活用することで、「新しい収益源を見出した（94%）」、「顧客を囲い込んで獲得した（90%）」、「さらに新しい製品やサービスを開発している（89%）」と回答した。

また、今後5年間でビッグデータが組織のどのような分野に大きな影響を与えようと思うか、との問いに対し、63%の経営幹部が「顧客関係」、58%が「製品開発」、56%が「オペレーション」と回答した。

ビッグデータ活用時の課題

経営幹部は自社でビッグデータを活用する場合に、以下のような課題に直面していると回答している。「セキュリティ（51%）」、「予算（47%）」、「ビッグデータを活用できる人材の不足（41%）」、「継続

的にビッグデータとアナリティクスに対応すること(37%)、「既存システムとの統合(35%)」。

アクセンチュア デジタルの、アクセンチュア アナリティクス マネジング・ディレクターおよびグローバル情報マネジメント統括であるヴィンス・デラーノ氏は、次のように述べている。

「柔軟性を保ちながら全ての状況に対応できるソリューションは無いことを認識して、ビッグデータ導入の課題を克服している組織もあります。そのような組織では、一つのアプローチがうまくいかない場合でも、すぐに別の方法を試し、試行錯誤を繰り返して成長しています。また、一度に全てを試みようとするのではなく、小さく始めて、一つの領域で価値を生み出すために人材を集中させ、そこから結果につなげようとしています。」

大企業はビッグデータに独自のアプローチを試みている

今回の調査結果によると、年間売上100億ドル以上の大企業は、年間売上5億ドル以下の中小企業とは異なるビッグデータに対するアプローチをとっていることが明らかになった。

◆**ビッグデータの重要性**：大企業の経営幹部の67%は、ビッグデータを極めて重要視しているが、中小企業では43%にとどまった。

◆**ビッグデータの定義**：大企業の経営幹部は、中小企業の経営幹部に比

べてビッグデータに含まれる内容をより深く理解し、かつより多くのデータソースを利用している。たとえば、ソーシャルネットワークから派生するデータ(大企業の経営幹部54%、中小企業の経営幹部29%が活用)、可視化されているデータ(大企業の経営幹部50%、中小企業の経営幹部29%が活用)や、非構造化データ(大企業の経営幹部49%、中小企業の経営幹部36%が活用)などがあげられる。

◆**ビッグデータを活用したプロジェクトに対する経営幹部の理解度**：大企業の経営幹部の62%は、ビッグデータについて理解し、ビッグデータを活用したプロジェクトを支援していると回答しているが、中小企業では42%だった。

ビッグデータ活用プロジェクトの成功への提言

アクセンチュアでは今回の調査レポートを踏まえて、企業および経営幹部がビッグデータ活用プロジェクトから生み出される効果を最大化しつつ課題を軽減させるために、以下を提言している。

◆**ビッグデータを取り巻くエコシステムを理解し、機敏に対応する**：データソースやビッグデータ関連技術は絶えず進化している。技術の進歩を常に把握し、そこから生まれるチャンスを機敏に掴み取ることが重要だ。

◆**小さく始めて成長させる**：一度に全てを試みようとするのではなく、

パイロット・プログラムや実証実験を通して、まず一つの領域に人材を集中させて、ビッグデータから価値を生み出すことに注力すべきだ。

◆**スキルの構築に注力する**：ビッグデータの最大の課題の一つが人材不足であることから、組織は、トレーニングや人材育成を通して社員のビッグデータを活用するスキルを伸ばしていく必要がある。54%の経営幹部は、自社内ですでに社員向けの技術トレーニングの機会を設けていると回答している。ほとんどの組織は外部の専門家にアドバイスを受けており、社内の人材だけでビッグデータの導入を進めていると回答している企業は、5%にとどまっている。

<本調査について>

本調査はビッグデータの活用を少なくとも1回は実行したことのある企業の経営幹部を対象に実施した。4,300人以上から調査対象を選抜し、そのうち36%は自社でまだビッグデータの導入を完了しておらず、現時点も進めていないと回答し、4%は最初のビッグデータプロジェクトを現在実行中であると回答した。残り2,600人のうち、1,007人に対し2014年3月にインタビューを実施した。

回答者は年間売上2億5千万ドルから100億ドル以上の企業の経営幹部。調査に参加した業界は、銀行、通信、消費財、エネルギー、保健医療プロバイダーおよびペイヤー、保険、小売り。調査対象企業の本拠地は日本、オーストラリア、ブラジル、カナダ、中国、デンマーク、フィンランド、フランス、ドイツ、インド、イタリア、マレーシア、オランダ、ノルウェー、シンガポール、スペイン、スウェーデン、英国、米国にある企業。

●お問い合わせ先●

アクセンチュア株式会社
マーケティング・コミュニケーション部
TEL：045-330-7157